

令和 4 年度島田市健康づくり推進協議会 健康管理部会実施報告

開催日	令和 5 年 1 月 30 日（月）午後 7 時から午後 8 時 57 分まで
出席者	島田市医師会、島田歯科医師会、島田薬剤師会、島田市総合医療センター（医師・薬剤師）、県中部健康福祉センター健康増進課、島田市国保年金課、島田市健康づくり課
会場	島田市保健福祉センター 3 階研修室
検討内容	<p>1. 部会長選出</p> <p>2. 島田市の健康課題 死亡原因の 4 分の 1 が悪性新生物。全国・県と比較し男女とも老衰、脳血管疾患や脳内出血が多い。 市の国保医療費の疾病分類経年比較では、1 位腎不全、2 位糖尿病、3 位その他の悪性新生物、4 位高血圧疾患。脳出血の一件当たり費用額は突出して高い。糖尿病の医療費は増加。人工透析の患者数はほぼ横ばいで、50 歳代以降が多い。透析の原因疾患は糖尿病が多く、高血圧が増加。</p> <p>3. 各機関における生活習慣病発症予防・重症化予防の取り組み ・健康づくり課：保健委員に対し適塩の健康教育を 11 回実施し地域へ普及啓発。マイレージ事業及び健幸アンバサダー養成講座を実施。 ・国保年金課：糖尿病性腎症保健指導プログラムの新規対象者の参加者が減少。減塩普及啓発事業（TE・A プロジェクト）で若い年代からの普及啓発。高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施で健康状態不明者へ訪問し、必要な人を関係機関につなげた。ユーチューブ配信やカレンダーの作成で市民への普及啓発を実施。 ・県中部健康福祉センター：40、50 代の事業所従業員の血圧測定習慣化事業を実施。産官学連携の野菜マシマシキャンペーンを実施。 ・薬剤師会：CKD ネットワーク事業を継続。 ・意見交換 糖尿病性腎症保健指導プログラムやユーチューブ配信、カレンダーの掲示などに連携が可能。 CKD シール貼付をステップアップし、患者の意識を腎臓に向けるツールとしたい。 健康寿命の延伸とともに、よい終末期を迎えることをセットで考えていかなければいけない。高齢部門と連携し、リビングウイイルやもしもの安心ノートを活用し市民への発信する。</p> <p>4 第 4 次島田市健康増進計画・食育推進計画及び第 2 次自殺対策計画策定について 慢性腎臓病の項目を追加したい。関係機関の取り組みを掲載したい。</p>

生活習慣病発症予防の取り組み

保健委員の役割と活動



- ・ 各自治会から原則1名推薦され、地域と行政をつなぐ重要なパイプ役を担っています。
- ・ 行政からの健康に関する情報を地域で広めたり、逆に、地域での心配事（特に健康に関すること）などを行政に伝えていただきます。
- ・ 自身が、健康に関して知識を向上できるような研修会に参加し、それを各地区で保健講座や地区のまつりの場などで、普及啓発を行います。
- ・ 毎年、活動スローガンに沿った活動を地域で展開しています。

本会活動

① 理事会

定期的に各地区の理事が集まり、協議会の運営に関することや、保健委員活動が円滑に実施できるよう協議します。

② 保健委員全体研修

年間4回の研修会

③ 会誌

- 1) 各町内に「保健委員だより」を回覧
- 2) 保健委員活動冊子「みち」

④ 複十字シール募金 (結核予防婦人会)

各地区のまつりや健康講座など人が集まるときに、複十字シール募金を呼びかけます。

地区活動

① 地区会

年に5回程度、保健委員の地区会があります。理事会での決定事項・伝達事項を伝えたり、地区の健康講座の企画や準備のために、学区ごとに地区会を開催します。

② 地区懇談会

③ 啓発

地区の健康課題や健（検）診・しまだ健幸マイレージなどについて啓発します。

④ 地区健康講座

学区や町内ごとに開催。

⑤ その他

各地区で保健委員が防災訓練、地域ふれあい事業、奉仕作業等の活動を実施。

11月地区会
研修テーマ：減塩、高血圧について

- 国保作成の動画を視聴
- お塩のとり方チェック表を使い、日ごろの食事を振り返る
- 食品に含まれる塩分量について
- 塩分と血圧のメカニズム
- 1日の塩分摂取量の目安
- 適塩のポイント

2

身近な人に口コミで健康情報を伝えましょう

健康や運動に無関心な人には健康情報が届きにくいことが課題になっています。

健康づくりを始めるきっかけとして、

身近な人からの口コミが有効といわれています。

健診受けた？

塩分のとりすぎは
要注意だって。

先に野菜を食べる
といいみたい。

資料1 健康管理部会報告

部会長島田市医師会の篠崎先生が選出されました。

島田市の健康課題として、

死亡原因の4分の1が悪性新生物で、全国・県と比較し男女とも老衰、脳血管疾患や脳内出血が多いことや、市の国保医療費では腎不全、糖尿病、その他の悪性新生物(20以外)、高血圧疾が1位から4位を占め、脳出血の一件当たり費用額は突出して高い。糖尿病の医療費は増加。人工透析の患者数はほぼ横ばいで、50歳代で急増、それ以降が多い。透析の原因疾患は糖尿病が多く、高血圧が増加。

次に各機関における生活習慣病発症予防・重症化予防の取り組みを報告していただきました。今年度の新たな取り組みとして、

- ・健康づくり課：保健委員に対し適塩の健康教育を11回実施し地域へ普及啓発。
- ・国保年金課：減塩普及啓発事業（TE・Aプロジェクト）で若い年代からの普及啓発。適塩についてユーチューブ配信や、健康に関する情報を掲載したカレンダーの作成で市民への普及啓発を実施した。

中部健康福祉センターからは、県の取り組みとして、40、50代の事業所従業員の血圧測定習慣化事業が報告された。血圧は1日の中で大きく変動し、受診時には正常でも家庭で血圧測定をすると早朝や夜間に血圧が高くなるケースがあり、このような人は脳血管疾患や心筋梗塞の発症する危険性が一般の高血圧と同等以上とされているため、家庭で継続的に血圧測定をし、自分の血圧値を知ることが必要といわれています。また、産官学連携の野菜マシマシキャンペーンを実施したことが報告された。

薬剤師会から、CKDネットワーク事業の報告があったのに対し、委員からはCKDシールの貼付をステップアップして、患者の意識を腎臓に向けるツールとしたいという発言があった。また、健康寿命の延伸を目指しているがそれとともに、よい終末期を迎えることをセットで考えていかなければいけないという意見がでました。事務局からは、高齢部門と連携し、リビングウイルやもしもの安心ノートを活用し市民への発信する。という意見が出た。